

# 令和元年度 第1回旭市学校再編計画策定委員会 会議録

1 期 日 令和元年7月29日(月) 開会 午後2時00分  
閉会 午後4時00分

2 場 所 旭市役所 本庁舎3階委員会室

## 3 出席者

会 長	加瀬 正彦 (副市長)
副 会 長	伊藤 啓子
委 員	富山 理
委 員	伊藤 英希
委 員	滑川 健雄
委 員	石毛 宏典
委 員	渡邊 錦一
委 員	小倉 和也
委 員	伊藤 義隆 (財政課長)
委 員	井上 保巳 (行政改革推進課長)
委 員	加瀬 政吉 (学校教育課長)
市 長	明智 忠直

《事務局》

庶務課長	栗田 茂
庶務課副課長	飯島 和則
庶務課施設班班長	八馬 裕樹
庶務課施設班副主査	林 義樹
庶務課施設班副主査	小林 尚嘉
庶務課施設班主事	勝又 智紀
学校教育課指導班班長	岩井 玲

※傍聴人：0名

## 4 開 会

### ・司会

それでは定刻となりましたので、第1回旭市学校再編計画策定委員会を開催いたします。

## 5 委嘱書交付

- ・市長から委員11人へ委嘱書を交付する。

## 6 市長あいさつ

皆様こんにちは。ようやく長かった梅雨が明けたようでありまして、これから本格的な夏に入るわけでありませけれども、暑くなれば、熱中症等に注意していかなければならない部分も多くあるかと思ひます。ご健康に注意しながらひとつこれからもよろしくお願ひを申し上げたいと思ひます。本日は令和元年度第1回旭市学校再編計画策定委員会委嘱書の交付式と第1回会議ということで、皆さん方に大変お忙しいなかお集まりいただきましたことを、改めてお礼と感謝を申し上げます。また、委員に快くお引き受けいただきましたことをお礼申し上げたいと思ひます。現在、日本国中みんなどこもそうでありませけれども、少子高齢化という大変な問題が起きているわけでありまして、そういった意味でも小中学校の学校の再編は当然やっていかなければならない位置にきているのではないかなと、そのように思っているところであります。28年、29年に旭市も学校のあり方の検討委員会を立ち上げまして、本来の小中学校のあり方がどういふものだろうか、といふことなかで、委員の皆さん方に真剣に議論をしていただきながら、2年間で結論を出していただきまして、その提言書を受けるところであります。その中でやはり次の段階として今度は小中学校のあり方ではなくて、再編をどうしていくのかといふ部分で今日皆さん方にこれから何回か何年か頑張つて検討をしていただきたい、そのように思つてこうした再編計画検討委員会を立ち上げたところであります。あり方検討委員会で理想の学校、あるいはこれから旭市が進むべきいふろんな部分、そういったものを含めながら検討した結果が出ていふわけでありまして、それを基軸に基本にこれからの再編を進めていきたい、そのように考えております。本当にこの旭市も合併時は72,000人の人口があつたわけでありませけれども、今は65,500人と6,500人くらい人口が減つてきているわけで、当然小中学校の生徒も少なくなつていふわけでありまして、このまま公共施設、特に学校の延床面積でも半分を占めていふといふなかで、小学校15校、中学校5校の今の現状は維持しきれない、そのような思ひでいふところでありまして、生徒数も当然少なくなるわけでありませし、学校の教育の現場にあつても、色んな不都合が生じてくるのではないかなと、そんな思ひでいふところでありませ。他所の香取市、銚子市、山武市、全県的にも学校の再編が検討されて進められていふところでありまして、私どもの旭市でも議会でもかなり小中学校の再編はどうなつていふのだろうか、といふような質問をうけていふところでありませ、皆さん方にはこれまでの色んな長い間の経験や体験、教育のプロフェッショナルとして、色んな部分でお力をお貸しいただき、再編をスムーズに円満に進めていきたいと、そんな思ひでいふところでありませ。一応、目標としては10年くらい先の、旭市は人口減少、各小学校がそんなにも特別減少するところが少ないところなかで、慌ててやる必要がないだらうといふところなかで、それとまたエアコンの設置、耐震化の問題、今やつたばかりでありませるので、そういった部分も議論

のなかでは基本的に考えてもらわなければならないところでもありますけれども、そういった部分も含めながら、皆様方に知恵をお借りしまして、これからの旭の姿、小中学校のあり方、再編、そういった部分も改めて検討して、議論して結論付けていただきたい、そのように思っているところでもありますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。大変忙しいなかでもありますけれども、子供たちの将来、そういったものに係わっていくわけでもありますので、是非いろんな面での素晴らしい案を作ってくださいましてを改めてお願い申し上げましてご挨拶にしたいと思います。よろしくお願ひします。

## 7 委員紹介

(各委員を事務局より紹介する)

## 8 事務局紹介

(事務局自己紹介)

## 9 会長・副会長選出

### ・司会

続きまして次第の議題に入らせていただきます。まず、議題1の会長等の選出ですが、お配りした、旭市学校再編計画策定委員会設置要綱の第5条第1項において「会長は副市長をもって充てる」とありますので、副市長に会長をお願いいたします。

それでは、ここで会長であります、加瀬副市長からご挨拶申しあげます。

### ・会長あいさつ

それでは要綱の規程により会長を努めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。いま、市長のご挨拶にもありまして、あり方検討委員会で2年間の議論を経て、そして市の方に提言をあげていただいております。ただ、その中では、適正な規模というのは書かれておりますけれども、具体的にというところはございませんでした。この策定委員会では少なくともより具体的な形として見えるもの、それを出していかなければいけないだろうと、そのために皆さんにお知恵をお借りして進めてまいりたい、そのように思っています。この委員の任期でございますけれども、この策定が終了するまでということでもありますので、是非ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。それと、実際のところ今、例えば昨年なんですけれども、子供の数が400人を切るというのは、旭市では初めてのことだったと思います。そのような形で現実に少子化が進んでいる状況、これは近隣に比べれば、まだ旭市のほうは恵まれている、そのような言葉を受けるんですけれども、それでもまだこれから先は予断を許さないときもあるのだと、そういうことを思いながら子供たちのことを第一に考えて本当にどの形が良いのかその辺を忌憚りの無いご意見をいただきながら、まとめていければなと思いますので、ご協力のほうをお願いいたしまして、簡単ですけども冒頭の挨拶にしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

## 10 議事

### ・司会

これより、委員会要綱第6条第1項に「会長が議長となる」とありますので、副市長が議長となり、これ以降の議事については、副市長に進行をお願いしたいと思います。

### ・議長

それでは議事に入らせていただきたいと思います。その前に、副会長については、要綱第5条第1項により「会長の指名」となっておりますので、私の方から指名させていただきたいと思います。副会長に、伊藤啓子委員さんを指名させていただきたいと思います。伊藤委員さんよろしいでしょうか。

……………伊藤委員了承……………

### ・議長

どうぞ運営のほうをよろしくご協力いただきますようお願い申し上げます。

### ・司会

大変恐縮ですが、市長におきましては、この後、所要がありますので退席させていただきます。

……………市長退席……………

本日の委員会につきましては、「旭市審議会等の会議の公開に関する要綱」第3条により原則公開となっておりますが、本日は傍聴人がおりませんので、引き続き会議を進行させていただきます。

### ・事務局

議題（2）から（5）を配付資料により説明

パワーポイント1～13番までを説明。

### ・議長

いま13番までそれぞれ学校の現状、それから人口推計の状況そういったものが説明されました。ここで一度質問を受ける時間を取りたいと思います。ご質問があればお願いいたします。ここまでの状況というのは、去年のあり方検討委員会で調査したなかで結構示されている内容があります。ただ子供の数については、今回あらためて各学校ごとに推計しておりますので、この辺の資料は初めてなのかなと思います。また最後にもご質問を受けたいと思いますので、この先の公共施設の長寿命化の状況とか、そこまで全部説明させていただいてもよろしいでしょうか。

……………委員了承……………

それでは最後まで一度説明して、全体としてまた質問を受けたいと思います。

### ・事務局

パワーポイント14～18番までを説明。

・議長

18の学校再編計画の策定に向けてということで質と量の最適化、ここを目指していく必要があるのではないか、ということで一旦終わりました。この後に近隣の取組の状況というものもあるんですけども、これはみんなそれぞれ現在進行形で進んでいるところであります。只今の説明までにつきまして、何かご質問があればお願いしたいと思います。

・委員

18番の学校再編計画の策定に向けてということで子供たちのための教育施設と謳っていただきますけれど、1番右下の防災拠点は減ることになるんですね、再編すると。減ったものを補充するという感じはあるんでしょうか。

・事務局

実際ですね、こういった事を考える今、公共施設は学校だけではありませんで、その他の公共施設もいま見直しというところもやっております、この学校の再編をするにあたって、その公共施設の見直しというところで、今回のやるにあたっては、資料の2ページ目の跡地の活用というところでも考えられるのかなと、要は学校は地域のコミュニティの場でもあるというところもございまして、今後、跡地利用も考えるにあたって、そういうところも1つのポイントになってくるかなと思っております。学校だけが防災拠点だけということではないというようにも考えられると思います。

・委員

再編というか、実際減らしていきたい指針のなかに防災拠点と書いてしまうと、減らすのは心もとないではないですけど、説得力に欠けるというところも見受けられるかなと思います。

・事務局

先ほどの資料の中で、学校の中でも土砂災害区域にあるとか、飯岡中学校は浸水区域から外れましたとか、そういうお話もございまして、災害が予想されるケースによってはその学校には避難が出来ないという学校も実際にはございますので、そういうところも考えれば移転したところがそういう所から外れるという事を考えて、移転先を考えていく、という所も1つの再編のポイントなのかなと考えております。

・議長

そうすると、今までは防災拠点だけでも、今の時点でも危ない学校もあると、そここのところも改善していくこともあって、こういう事も含めていくという、移転した先、残った学校の跡地の利用の話もさっきありましたけれども、現実にはその跡地、若しくは校舎等がまだ使えるようであればそここのところは、防災拠点として残すことも想定されるということでいいのかな。非常に厳しい話、でもご意見ありがとうございます。そういった視点も外してはいけないと所だと思いますので、ありがとうございます。

今回、お配りした資料のほかにも、もう少しこんな資料があったらとか、そういうリクエスト

トも含めてご意見を伺いたいと思いますが如何でしょうか。

#### ・委員

説明、どうもありがとうございました。いまの説明を聞いていると、どちらかという行政側の説明が多いのかなと、ちょっと子供たちの姿が見えてこないんですけども、子供たちの姿が見えてくるのが「8. 生徒数が少ないメリットデメリット」のページくらいかなと思います。生徒数が少ないメリットデメリットというところで、ここでまた小学校と中学校でまたメリットデメリットが違ってくると思うんですよ。そういう意味で、別々に出ているものがあれば、具体的にもう少し教えてもらいたい。あとこのページの下の方に「人口が多い時代は学校と地域が強く結びついた教育が行われてきた。時代の変化によって・・・」とあるのですが、この変を具体的に教えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

#### ・事務局

メリットデメリットという点ですが、先ほどのものはあり方検討委員会のアンケートの抜粋を載せさせていただいておりまして、実際のあり方検討委員会の中では小中学校別々のメリットデメリットが載せてあります。お配りしました、資料5のあり方検討委員会の提言書というものがございまして、その9ページからになります。各小中学校の校長先生からヒアリングを行った結果が載っております。細かいメリットデメリットの中で多く意見があったものを今回ご紹介してもらいましたが、小中学校別でいいますと、ここら辺を参考にいただければと思います。次の地域格差や不均衡というお話なんです、ある程度規模が大きい学校には保護者がいっぱいいて、地域を支える方も大勢いる。少ないところには生徒数によって地域の差が出来てしまうというところが、例えば地域活動する上でも、1つ同じ作業をする上でも格差、不均衡というものが仕事量としても出てきてしまう。あと、子供たちと地域を関連付ける何かをしようとした時にも、地元の人が少ないとか、やってくれる人が少ないといったもので、地元を良く知れないというのが、不均衡として挙がってくるのかなというところを載せさせていただきました。そういったものが地域格差という少し大袈裟なんです、少し差が出てしまうということを書かせていただきました。

#### ・議長

委員からは、再編していく上での欠かせない視点ということでご質問がございました。これまで28年29年で小中学校のあり方ということで、かなり詳しく利点それから課題、そういったものを整理してきているというところでもあります。そのところをだいぶ端折ってしまっただけで説明したので、一部誤解を受けた面があったのかなと、そのように思います。この所については、このあり方の中で望ましい規模というものを最終的に提言としてクラス数であったりという形で出しているところでありますので、この辺はまた議論を深めていく中でさらに疑問なところがあれば出していただいても構わないと思いますのでよろしくお願いいたします。

・委員

旭市総合管理計画でお伺いしたいのですが、施設の削減目標で教育関連施設に充てる目安みたいなものはでているのでしょうか。この20(%)というのはどういうところからでてきているのでしょうか。おわかりになればお願いします。

・議長

いま削減目標20%以上という、これについては事務局よりも委員に入っている行政改革推進課長いいですか。お願いします。

・委員(行政改革推進課長)

いまここで20%ということは、延床面積ということで設定している目標でございます、その中では学校に対する目標というのは特別には現在設けていない状況でございます。将来的には15番(スライド)にありますような将来的には年平均でこれは建物、あと水道、道路、そういったものも含めての全ての施設に係る整備費ということで、現在、平均としては54億円くらい、現在より1.9倍くらいの費用が必要となるよ、ということでございますので現在の数字に照らし合わせて逆算した結果の20%が必要だと、そういうことでございますので、具体的なものではないということでご理解をいただきたいと思います。

・委員

実際、教育施設は入っているということですね。

・委員(行政改革推進課長)

そうです。15の資料にあるように、延床面積は学校が約半分ほど占めておりますので、当然この中に学校のほうもそういった減らすなり、そういったことはしていただきたい、という考えの基でこの計画は作ってございます。さきほど、16番のほうで学校の建物のほうで今後長寿命化というものを進めたなかで、そうすると年間9億円くらい必要だと数字の報告がございました。これが9億円でございますけれども、市の箱物、建物の施設のなかで全部でどれくらい見込むのかということになりますと、ちょっと戻っていただいて資料14番の右のグラフのほうにちょっと書いてあります。これが長寿命化ということで19億円くらい、建物全体全部をあわせると19億円、このうち学校ですと約9億円ということで、先ほど15番にある面積の約半分と、これがほぼ一致してくるのかなと思います。これ以外にですね、例えば学校施設でございましたら12と13ページにありますけれども、例えば小学校だったら約2億円、13の中学校だったら約1億円ということで、あわせて3億円ほど維持管理費といってこれは別途かかるというふうになっております。

・議長

いま公共施設の長寿命化総合管理の話になったんですけども、現実には学校施設の占める割合が面積的に非常に多いということで、この総合管理計画をお出ししているところもあります。ただ、財政面ですべてそれを減らすとかそういう形で学校の再編に結び付けていくものではあ

りません。あくまでも子供たちの数というのが、私、冒頭で年間400人を切る数字しか生まれませんでした、というお話をさせていただきました。そうすると例えば6年間で2400人、2400人を例えば15校の小学校で割ったときに、その小学校の数というのが概ね解かると思います。多い少ないところはある、そういったところも踏まえて、あり方検討委員会の時には、当時平成でしたけども、まだ平成30年代の半ばまでくらいしか当時の推計が出ていなかった、それをその先まで細かな推計を学区ごとに拾い出して作ったのが今回の推計の肝になっているところでありまして、そうすると相当子供の数が減ってしまう、そうすると本当に今の学校のあり方としてこのままでいいのだろうかというところを踏まえて、結構な危機感を持って近隣の市はやっているんですけども、旭市はそれでも子供の数の減り方が少なかったもので、少しのんびりしていた気合があるんですけども、今回ここは待ったなしという形で行ってるという状況があるということでご理解いただければなと思っています。私が補足してしまいました。

#### ・委員

まず再編について質問なんですけども、合併ではなくて再編ということは、解体もあるんですかね。大きい学校を2つに分けるとか、というの中にはあり得るということなのか。あともう1点は、統合の小学校、中学校を作った場合、また違うところに建設するのか、ていうのも違う市とかを見ますとやってらっしゃるんですが、そこらへんはどういう考えで進めていくのでしょうか。

#### ・事務局

2点ご質問いただきました。合併再編ということでご説明をしております、それを今回決めていただくということでありまして、当然場合によっては学区を分けることも発生する可能性があるというところは承知しております。現に旭二中、中央小学校は、かなり大規模な学校でございます。ただ、先のほうの人口推計を見ますと、それなりに減ってはくるということでございます。ただ、隣り合わせでくっ付けたりやっていきますと、もしかしたら一部切り落として違うほうに、お隣さんというところも考えられなくはないかもしれません。それをここで、合意形成を図ってですね、これがよいかないところを見出していきたいと考えております。2点目の統合の場合のというお話もございまして、それもここにいうふうに決めているわけではございませんので、こういうところが理想でないのかということもございましたら、遠慮なく意見として述べていただきたいというふうに考えております。

#### ・委員

私たちが統廃合となると、干潟地区であれば干潟地区だけ、海上地区なら海上地区だけみたいな、それをくっ付けたりなにかするのかなという感覚があるんですけど、これはもう旭市として干潟地区と例えば共和をくっ付けるとか、そういうようなこともあり得るのでしょうか。なんとなく元の町の中で、こことここをくっ付けようという感覚があるんですけども、実際



には、例えば旭地区と干潟地区をくっ付けちゃうということも有なのか。

#### ・事務局

簡単に考えれば、今の学校と学校をくっ付けるとか、それが一番手っ取り早いやり方なのかというのは考えられます。ただそれでは済まない場合も出てくる可能性もございまして、そういうところについては、やっぱり先のことを考えると一緒にしてしまったほうが良いよな、とかそういうところもあり得るかも知れません。この資料の一番最後のほうに付いてある、これから説明する予定の香取市なんかのケースは、そんなケースでございまして、結構大規模に合併をしているというところもございまして、ですから、ケースとしてここまでって考えるということではなくて、何がどの時点で一番良いかというところを勉強していきたいなと考えております。

#### ・議長

これは先ほどの市域というか合併前の境界の話がどうしても絡んでしまうと、難しい面があるかもしれませんが、たぶん今回はその枠だけで考えていくと、なかなか難しいのかなという状況はございます。現実には、例えば中和、萬歳、古城という旧干潟町の地域、あと20年後いくと、下手すると複式学級が必要な小学校が出来てしまうということが、そうすると全部足しても150人程度になってしまって、この生徒数が全部中学校に上がっていった時に、実際には6学年でこの数字ですから中学校3学年しかありませんから、その半分しかない。そうすると中学校だけでも70人とか、80人とかそういうレベルの中学校になってしまう、本当にそれで中学校として成り立って、子供たちのためになっていくのか、通学距離が変わらないのであれば、別のところの学区、再編も踏まえて、そのところを統合していきながら、もうひとつまとめていく必要があるのではないかと。そういったことも実は、行政側もすべて丸投げするわけではありませんで、いろんな職員の意見も募集しながらやってきてはいるんですけども、それでもやっぱり色んな意見があって、ここをうまく出していけない部分もあるんですけども、やはり将来のことを考えたときにはもう少し他の市と同じ様な形にしていく必要があるのかなということで今回ここでもう、さっき市長の挨拶でも10年後を目指してみたいな形でとありましたけれども、その辺を目途に一番最初のところがそれでいければなというのはございます。

#### ・委員

小学校にあがる前の就学前児童の保育所とのからみをまったく考えなくても大丈夫なのでしょう。学校を考えるとその下ということを考えてしまうんですけども、保育所もやはり小学校の近隣にあって、保育所の子達が小学校にあがるということが大前提なので、その辺はまったく考えなくてもよいというか、資料もまったく無いもので、どんなものなのでしょう。

・議長

保育所は管轄外となるので、私のほうからお答えします。保育所についても、保育所のあり方については一度協議をいただいて、こういう方向が良いだろうというのを出していただいています。その中では、やっぱり廃止すべきだというものがある、本来はそういうところを踏まえて学校につながっていくだろうということがあります。ただ、学校と保育所って大幅に違うのは、本来、保育所って歩いて通えるところにみんな住宅があれば、その保育所は成り立っていくんですけども、現実はそのじゃなくて、みんな車で送り迎えしている。ですから保育所はもしかしたら意外と統合しても、みんな苦情は出ないんですね。実は、実例として飯岡の公立の保育所が3つあったんですけども、いま1つしかありません。その1つに統合したけれども、誰も文句は言わないんです、父兄は。全部喜んでいて、新しい保育所になって、充実して子供たちもしっかりと元気に通っている。1つにしてもらって良かった、そういう言葉をいただいている。ですから、どちらかという、歩いて通う学校よりも保育所のほうが統合は示しやすい可能性はあります。ですから学校がある程度こういう学区でと決まってくると、保育所もそれにしたがって合わさっていく、そういう思いは持っています。ただ保育所も別枠で進めていきます。よろしくお祈りします。保育所の人数のデータが必要ということであれば、それはお出しすることはできます。

その他、近隣の状況を説明してもらおうか。

・事務局

パワーポイント19～21番までを説明。

・議長

事務局から改めて3市の状況についてということで、ご説明がありました。このへんも踏まえて、さらにご意見やご質問をいただくわけなんです、〇〇委員、今までの説明の中で気になる点があれば。

・委員

色々細かい話が出ていたんですけども、まず前提となるのが、旭市で将来を担う子供を、どういった子供を育てていくのかというのが、まず前提になるのではないかなと思います。なぜかという、実は秋田県も同じように人口が減っている、けれども学力調査ではいま日本一になっているんですけども、何に力を入れてきたかというのを秋田大学の先生が来て講演していただいたんですけども、そこで県教委のほうでふるさと教育をやって、自分のふるさとって素晴らしい所だなんていうのを子供たちに教育をしていって、自分のふるさとで活躍できる人材を育てていこうという事をやったとういうことを聞きました。ですので、どんな子を育てていくのか、そのためにはどういう教育をしたらいいのか、何に力を入れていくのかを考えていくと、そうするとおのずと学校の規模とか施設、設備がどんなのが必要になってくるのかが決まってくるのかなと思います。やっぱりこれから社会が変化していくなかで、やはり、こう

いっていいのかわからないんですが、やはり ICT を使いこなせるというか、そういうのに長けた子供たちを育てるといのが必要なので、やはりそういう施設設備というのを作っていくことも、視野に入れたほうがいいのかと思います。もう 1 点は、今の学校の配置を見ると、例えば旭中央小と第二中がすごく近いんですけども、先ほど小中一貫校は施設の併設型とか分離型とかあるんですけども、そういうような小中を一貫で唱える、教育していくような方法とか、また千葉県の中だと、市川の塩浜学園とか、成田市の下総学園のような義務教育学校ということで、校長先生が 1 人いて、あとは小学部というか小学校と中学校にそれぞれ教頭がいて、一環して教育目標を持って子供たちを育てていくというような学校も県内にありますので、せっかくこういう話がでて、今すぐではなく 10 年後を目途にということなので、時間がかかっちゃうかもしれないんですが、ちょっと広がりすぎちゃうかもしれないんですが、そこから考えると、どこどこをくっ付けるというような議論も大切なんですけれども、例えば施設を修理してこれから使うのであれば、どこが非常に望ましいのかということも、どんな教育をするのかという視点から考えられるんじゃないかなというふうに思います。

・議長

ありがとうございます。様々な現場を見てきた方ならではのご意見であったと思います。そういったなかでも小中一環という話も出ちゃいました。あと施設の活用の話のなかで ICT という話、それから教育の内容の話、これからこの再編の中でうまく意見として盛り込めれば頂戴したいなと思います。ありがとうございます。それでは、〇〇委員さん、あり方検討委員会の座長さんですので、その辺の前段の話、先に伺えばよかったんですが、今になってしまいました。一言あればよろしくお願いします。

・委員

今日は資料を用意していただいているので、次回までにこの提言書に目を通していただけると、今日説明されなかった部分についても、十分わかっていただけるのかなというふうに思います。私、新しくこれは素敵と思ったのが、20 の山武市の再編状況のなかの、1 クラスを 20 から 30 人に決めたってことなんですけど、色々な縛りがあって、20 ～ 30 にすることは、県費では賄えない場合が出てきます。その場合を市が持分を負担するということになると思います。質問してもよろしいでしょうか。山武の場合の 20 ～ 30 人で、標準とやった場合と比べてどれくらい教員が不足するのでしょうか。

・議長

今の話、学校教育課長、ぱつとでませんよね。数字的には。

・委員（学校教育課長）

ちょっと数字的には厳しいです。

・議長

その辺は逆に、そういった少人数学級で編成していったということであれば、その時には当

然、先生の数を増やさなければいけないということがありますから、そうすると相当の費用が上乗せになるということで、単費で費用を確保していかななくてはならないところもありますので、山武市の事例をもう少し詳しく聞いて、その辺のことまで含めて考えているのかどうか、さらにどの程度の額を見込んでいるのか、そういうのを聞ければ次回までに聞いてきていただければと思いますので、よろしいですか。

・委員

併せて、統合なりする場合は、大抵の人の場合は、スクールバスを利用したりしますね。再編をした結果、学校数が減ったお陰で増える費用というものもあると思うのでそのバランスについて教えていただければと思います。

・議長

そうすると、スクールバス1台を仮に運用したとすると、どのくらいの費用をかけているのかとか、その辺ももし隣の香取市などの事例とかがあるから、聞いていただければと思います。あと〇〇委員さん、教育委員さんもなされていたので、学校の状況も詳しいと思いますけど、何か確認したい点等あれば、ご意見でも構いませんが。

・委員

先ほどの香取市の再編ですけども、旧山田町の小学校5校が1つになったって話を聞いたんですけども、小学校の脇にまた中学校がたまたまあったと思うんですけども、ちょうど旭市だと、運よくでもないですけど、干潟町と海上町の鶴巻小と滝郷小なんかあると思うんですけども、小さいところの小学校を大きいところに持っていくとなると、なんだかんだうちの小学校がなくなったじゃないかという批判もあると思うので、かえって中学校の脇に持ってきたほうが良いんじゃないかなと思ったんですけども。

・議長

ありがとうございます。具体的な再編の形としてひとつ提案がありましたので、それはご意見をだしていただいたということで、具体的にその案がきちんと方向性として出していけるかは、また別ですけども、いまご意見いただいたものは、きちんと記録して、こういった案もあるということで進めてもらいたいと思います。

次回の予定は9月を予定しているんですよ。それで学校の現場も分からないとなかなかご意見を言いづらいのかなと、当然わかっている方もいらっしゃるんですけども、できれば次回の時には一度各学校、小規模校、中規模校、大規模校のような、そういった学校を一度見ていただいて、具体的な課題とかそういうところも把握していただいたうえで、議論いただきたいなと思っているんですが、委員さんとして、各学校を見ることについていかがですか。PTAの役員さんも小さい学校を見る機会があまりないと思いますので。

あと、例えば行政の中でも職員から色んな意見をいただいた。そういう中で、こうしたら良いんじゃないかというところは、実は行政改革推進課で1枚絵をまとめてはあるんです。でも

それは、あくまでも行政の中でまとめたものであって、それでは不合理な部分も相当あるのではないかと考えています。ただ、何もないとその先の話もなかなか進まない。ゼロから積上げていくと何も出来上がらないということもありますので、場合によっては2回目でそういった案を一部お出ししながら議論いただくということも想定していたんですけども、その辺についてもご意見をいただいて、もし許されるのであれば、学校の視察とそれから案もお示して、さらにその上で更に議論を深めていただくという形をとっていきたいのですが、いかがでしょうか。

・委員

再編が済んでいる香取市、銚子市と山武市さんのお話を聞いて、どういった系統でまずまとめて、どういった経緯で、例えば困ったこととか、どういったことが苦勞したか。

・議長

近隣の市の再編にあたって苦勞した点、細かな実際の事務の中での苦勞をできれば知りたいということですね。ですからその辺はもう少し資料を整理していただけますか。

……………事務局了解……………

事務局のほうでスケジュール案を示してください。

・事務局

今後のスケジュール・視察校の案を説明。

・議長

そのほかにご質問があれば。

・委員

パブリックコメントの募集のタイミングについては、素案をまとめてからの素案についてのパブリックコメントなのか、方向性についてのパブリックコメントなのでしょうか。

・事務局

素案をまとめた段階でのパブコメと考えております。

・議長

そのほかございますでしょうか。なければ第1回学校再編計画策定委員会を終わりにしたいと思います。それでは策定が終了するまでよろしくお願いします。